

令和元年度

事業報告書

社会福祉法人
ふきのとうの会

会を横断的に考える際のきっかけづくりにつながると考える。次年度も継続することで、参加型の地域福祉社会の醸成に寄与したい。

2. 理事会及び評議員会の開催

理事会、評議員会は、下記のとおり開催した。

- ・第76回 理事会
 - 日 時 令和元年5月26日（日）
 - 場 所 ふきのとうデイホーム
 - 議 事
 - ・平成30年度 事業報告
 - ・修繕積立金の計上について
 - ・平成30年度 決算報告
 - ・評議員選任・解任委員会への新評議員1名の推薦について
 - ・定款変更について
 - ・定時評議員会の招集について
 - ・定時評議員会の目的となる議題について
 - ・理事会の決議の目的である事項の確認について（決議省略）

- ・第74回 定時評議員会
 - 日 時 令和元年6月16日（日）
 - 場 所 ふきのとうデイホーム
 - 議 題
 - ・平成30年度決算報告（計算書類を及び財産目録）
 - ・役員（理事・監事）の選任
 - ・定款変更

- ・評議員選任・解任委員会
 - 日 時 令和元年6月16日（日）
 - 場 所 ふきのとうデイホーム
 - 議 題
 - ・熊野靖子氏の解任と新評議員1名の選任（大原和子氏）について

- ・第77回 理事会
 - 日 時 令和元年10月13日（日）
 - 場 所 ふきのとうデイホーム
 - 議 題
 - ・臨時評議員会の開催（日時、場所、議題、議案）について

- ・第78回 理事会

2. 公益事業

1. 「食でつながるフェスタ全国集会 in 東京 2019」の開催

日 時 令和元年7月29日（日）

会 場 ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ

参加者 約125名

主 催 食でつながるフェスタ全国集会 in 東京 2019 実行委員会／一般社団法人全国食支援活動協力会（ミールズ・オン・ホールズ日本協会）。当法人は共催として参加。

2. サービス付き高齢者向け住宅アンジェリカハイツの運営

現在満室で、入居希望者からの問い合わせが数多く寄せられている。毎週水曜日にコミュニティカフェを開催し、入居者のコミュニティを推進すると共に、地域のボランティアや入居者同士のつながりをつくる貴重な機会となっている。

生活支援サービスは、ふきのとうスタッフによる毎日の安否確認および相談、総合警備保障(株)との契約による夜間・休日の緊急対応等が行われている。穏やかな見守りのもと、可能な限り自立した高齢者の暮らしが行われている。

3. 老人給食協力会ふきのとうとの連携

ふきのとうの本部毎日型食事サービスやホームヘルプサービス活動に対する支援、また地域協働を推進するための学習会や催事等を老人給食協力会ふきのとうと共催した。

① コミュニティカフェ・ふきのとう

・毎週水曜日 13:00～15:00 オープン

・ふきのとう kite-mite バザー（10月20日）

参加者約120名 ふきのとうデイホーム

・用賀あんしんすこやかセンター、玉川地域社会福祉協議会との協働企画「福祉のお気軽相談会」（9月4日、1月29日）参加者10名

3. デイホーム赤堤

今年度は、認知症対応型通所介護の利用者が安定した人数でスタートでき、順調な滑り出しが出来たと思っていたが、初秋頃から利用者の入院、入所が相次ぎ、すぐに回復するだけの十分な利用者の新規獲得が出来なかった。また、コロナウイルスの影響で、利用控えする利用者が多数出てしまい、実績を下げる結果となってしまった。プログラムについては、身体の機能訓練の他に認知の機能訓練を始めた。その為に職員全体で勉強会をし、個々に自己研鑽をするようになった。まだまだ発展途上ではあるが、職員1人1人のスキルアップ、意欲の向上が多少出来たと思う。また、新しく入職した職員も定着し、施設の特徴も明確になってきたので、次年度の成果に繋がっていくと思われる。

居宅支援事業所においては、9月まで当施設内で事業を行っていた。利用者件数も維持し、法人比率も45%と安定していた。10月よりデイホーム桜丘に移転。

1. 介護保険事業 ①通所介護（食事、送迎あり）
 一般型 定員35名（総合事業通所介護を含む）
 認知症型 定員12名
- ②居宅介護支援（9月まで）
2. 世田谷区委託事業 ①配食サービス（令和2年3月終了）
- ②高齢者住宅生活協力員業務

ボランティア・教育機関との連携

地域に開かれた施設づくりを目指して開放的な環境をつくることに日々努力し、教育機関と連携しながらボランティア体験や実習の受け入れを実施した。

小学校2校 中学校2校 高等学校1校 大学1校
松沢青少年ボランティア59名 夏休みボランティアその他 2名

ボランティア活動状況

調理	実人員	25名	延べ人員	1,143名
配達	実人員	6名	延べ人員	413名
介護	実人員	18名	延べ人員	753名
プログラム	実人員	215名	延べ人員	1,161名
	(団体20 個人21名)			

計264名

3,470名

4. デイホーム桜丘

今年度より祝日も事業を実施した。利用者、ご家族には喜ばれたが、その分の職員増が必要となり、昨年度に引き続き最大の課題は職員採用及び人材育成であった。ようやく年度末を前にして職員不足の解消に至ったが、採用コストと人件費の増加を招くこととなった。

利用率は、一般デイ8割弱、認知デイ6割弱と、昨年度からほぼ横ばいで推移しているが、支出増によって赤字幅が大きくなっている。利用者の受入増に向けた職員体制づくりに取り組んでいるところである。

年度後半、居宅介護支援事業が新たに主任ケアマネを管理者として迎え、デイホーム赤堤からデイホーム桜丘へ移転したが、安定した運営を行えるようになるまでには今しばらくの時間がかかりそうである。

平成30年度末に老朽化のため廃止が予定されていた世田谷区高齢者住宅（ハイツカワニシ）の生活協力員事業は、最後の退去者が31年4月にずれ込み、終了となった。また、世田谷区配食サービス事業は年度途中で区として事業終了の方針が示され、3月末をもって終了となった。当施設としては、ふきのとうを含む民間の配食事業者に可能な限り申し送りを行った。

併設の小学校、BOP（学童保育所）、近隣の保育園、中学校等との交流や連携は例年通り行った。毎月の第1（金）夜の子ども食堂は、毎回百名以上の参加者でにぎわっている。今年度も多くの地域住民、ボランティアの参加・協力のもとで事業を行い、多世代参加による地域福祉の拠点となるべく努めてきたが、年度末からの新型コロナウイルスの影響により、これら全てストップせざるを得ない状況となった。

1. 介護保険事業 ①通所介護
 一般型 定員30名（総合事業通所介護含む）
 認知症型 定員12名
- ②居宅介護支援（令和元年10月～）
2. 世田谷区委託事業 ①配食サービス（令和2年3月終了）
 ②高齢者住宅生活協力員業務（令和元年4月終了）

ボランティア・教育機関との連携

桜丘小学校4年生及びBOPとの交流 13回 車イス体験等授業協力 5回
南桜丘保育園交流 2回
中学校4校、職場体験・奉仕体験受入 延べ36名

5. ふきのとうデイホーム

当初から、入浴希望の方を受け入れることで実績増を予定していたが、思うようには伸びなかった。また6月に非常勤の介護員が退職し、スタッフの補充ができず入浴人数の増につなげられなかった。その結果、1年を通じて横ばいであった。次年度は、地域の方に、ひとりでも多く知ってもらい、地域とともに成長できる施設を目指していきたいと思う。

運 営

一般型通所介護 定員25名：月・火・金（総合事業通所介護を含む）

定員20名：水・木・土（総合事業通所介護を含む）

食事、送迎、入浴あり

職員体制 管理者（相談員兼務）1名、相談員（介護員兼務）1名

看護師3名（非常勤3名） 介護員7名（含む非常勤5名）

ボランティア活動状況

配膳・ケア 実人員 13名 延べ人員 490名

プログラム 実人員 55名 延べ人員 276名

(10団体を含む)

計 68名

計 766名

ボランティア・教育機関との連携

用賀小学生との交流 1回、2年生による町探検、夏休みのボランティア
中学生の職場体験

ふきのとうデイホーム 令和元年度 事業実績 総括表

通所介護実績

	実施日数	延べ人数	日平均数	実人員
通常型	308	4,386	14.2	62
予防型	308	459	1.5	9
合 計	308	4,845	15.7	71

マに、当事者の方との交流会を2回開催した。

- ・相談拡充対象者向けに、健康づくり課、北沢地域障害相談支援センター、商店街共催の「こころの健康づくり講演会」を1回開催した。
- ・8050問題においては、地域ケア会議Bを開催して、アセスメントを深化し、課題に向けて役割分担を行い、各関係機関で連携を図り、必要な支援に繋ぐ事が出来た。

3) PRと地域づくり活動

課題1 区民が将来について不安を感じている

課題2 認知症の家族の精神的負担が大きい

<出来た事>

- ・広報紙を4回発行して、あんしんすこやかセンターの周知を行った。
- ・地区の病院、クリニック、歯科医院、薬局、郵便局、信用金庫へ「松沢あんすこパンフレット」を作成し、相談窓口の周知を行った。
- ・区民向けに主任ケアマネージャー等と連携し「高齢者の住まいと暮らし」をテーマに合同いきいき講座を1回開催した。
- ・自主グループの立ち上げに向けて、対象者に周知するため「フレイル予防」をテーマに体操・講座を取り入れたいきいき講座を3回開催した。
- ・認知症家族を対象に、「松沢介護者のつどい」を3回開催して、新規参加者を3名増やすことが出来た。

<出来なかった事>

- ・4回目の「松沢介護者のつどい」を予定していたが、コロナウイルス感染自粛に伴い中止した。

4) 認知症ケアの推進

課題 認知症に対する理解の啓発

<出来た事>

- ・高齢者クラブ、中学生、大学生（2回）、郵便局、サービス公社へ、対象に合わせて認知症サポート養成講座を6回開催した。
- ・あんしんすこやかセンター職員が医療機関や家族会に出向き、認知症相談窓口の周知を行った。支援が必要な方に対しては、5名の方に認知症初期集中支援事業を活用して医療・介護保険サービスに繋げる事が出来た。
- ・支援拒否のある認知症の方に対して、1名の方に専門医事業を利用して介護保険サービスに繋ぐ事が出来た。
- ・認知症の周辺症状により医療機関、警察、郵便局、銀行からの権利擁護に関わる相談が多く、成年後見センターや消費生活課、消費生活センターと連携を図り必要な支援に繋げた。

5) 在宅療養・介護連携の推進

課題1 在宅療養の理解が乏しい

4回開催し災害に向けての意見交換を行った。

- ・まちづくりセンターと毎月避難所運営委員会に参加して災害時に向けた対応を共有した。また、消防署員と防火防災診断を3件の高齢世帯で実施し防災の啓発を行った。
- ・地域密着サービス事業所と地域住民参加による「運営推進会議」に2回参加し、意見交換を行った。

<出来なかった事>

- ・梅丘あんしんすこやかセンターとの共催で指定居宅介護支援事業所間の業務とケアマネジメント技術向上について再度開催する予定ではあったが、コロナウイルス感染に伴い中止した。

8) 人材育成

課題1 未経験の職員に対する対応、経験者のスキルアップ

<出来た事>

- ・経験の少ない職員を重点に地域包括職員として必要な知識を得るため、東京都や世田谷区福祉人材研修センターで行っている研修に16回参加し今後の仕事に活かす事が出来た。
- ・世田谷福祉人材センターで行っている主任ケアマネージャー研修、医療職研修、社会福祉士研修に各担当者が参加してスキルアップに努めた。
- ・法人で行っている全体研修に2回参加した。「権利擁護」をテーマに、あんしんすこやかセンターの社会福祉士が中心となり講義を行った。
- ・あんしんすこやかセンター職員、主任ケアマネージャー、指定居宅介護支援事業所のケアマネージャー、スーパービジョンについて「面接技法と個人スーパービジョン」をテーマに法人内で講師を招いて研修を2回開催した。

9) あんしん見守り事業

課題1 ひとり暮らしや認知症で見守りが必要な方が安心して暮らす地域づくり

<出来た事>

- ・見守りボランティアによる見守り訪問を毎月実施し、見守り交流会を1回開催した。
- ・見守り高齢者の中から特殊詐欺対策採用自動通話録音機を42台設置し被害の未然防止を強化した。

2. 経堂地域包括支援センター

1) 介護予防ケアマネジメント・一般介護予防事業

<出来た事>

- ・世田谷区から提供される訪問対象者リストによる実態把握や、はつらつ介護予防講座、いきいき講座を主催するとともに、地域のサロン・食事会等にできるだけ参加（年間30回程度）し、新しい住民主体の活動の担い手発掘や、担い手からの活動立ち上げのための相談支援に取り組んだ。
- ・社会福祉協議会と連携して商店街のお休み処を使った居場所づくりへ参加しており、今後も会の運営に必要な運動指導員や企業の地域貢献活動の紹介等を通じて住民活動に対する支援を社会福祉協議会と一緒に取り組んでいく。
- ・総合事業と予防給付のプラン件数は5, 209件（月平均430件程度）となっており、平成30年度より445件増えた。

<出来なかった事>

- ・宮坂地域に体操の居場所が少なく、自主グループを3月に立ち上げる予定だったが、新型コロナウイルス感染自粛に伴い、中止した。

2) 相談対応

<出来た事>

- ・相談拡充事例で連携の必要な場合はその属性に合わせて、保健福祉課障害支援係や生活支援課、健康づくり課と連携しながら取り組みを行った。
- ・今年度はポートせたがや（世田谷地域障害相談支援センター）及びぷらっとホーム世田谷との連携事例が増えた。ポートへは引っ越しの際の物件探し支援や高次脳機能障害がある方への社会復帰等の相談、ぷらっとホームへは困窮している方々へのフードバンク支援での相談事例が多かった。

3) PRと地域づくり活動

<出来た事>

- ・広報誌発行年2回。配布は、サロン、事業所、介護者、訪問対象者リスト訪問時に計400枚配布した。
- ・地区の高齢者の抱える課題に合わせた内容を年3回実施した。1回目「終い方のいろいろ」、2回目「健康のための音楽療法」、3回目「糖尿病の話」（延べ参加者数99名）。
- ・まちづくりセンター、社会福祉協議会と共催で、見守りネットワーク推進会議を開催し、地区の災害時の連携、認知症への理解と見守りについてネットワークづくりを推進した。
- ・経堂介護者のつどいを隔月全5回開催した。（参加者合計33名）毎回会報を作成し、窓口で介護者やケアマネジャーに配布。出席できなかった介護者の方々にも定期郵送を実施した。
- ・地区の介護者向けのサロンと認知症カフェに毎月1回参加し、適時消費者被

7) 参加と協働による地域づくりの推進

課題 地区のネットワークの構築・認知症予防と防災の推進

<出来た事>

- ・多職種連携促進、及び地区ケアマネジメント力の向上を目的とした経堂地区包括ケア会議を地区の主任ケアマネジャーと月1で打ち合わせながら企画している。令和元年度は「事業所と地域の災害時の連携」をテーマに8月に会議を開催、「長期停電時に重介護者を支援するには」をテーマに2月に会議を開催している。(延べ115名参加)
- ・三者連携会議には管理者、看護師、社会福祉士、主任ケアマネジャーの4名で参加している。三者連携の事業として行う見守りネットワーク推進会議を開催し、「災害時の連携」と「認知症の徘徊」をテーマに、災害は地震や火事だけではないこと、認知症の方への声掛けや見守りについての課題抽出、及びネットワークづくりを行った。(54名参加)
- ・災害に強い地域を目指し、防災塾では災害時要配慮者支援について、各介護事業所にも参加いただき、地域の方とともに検討した。

8) 人材育成

課題1 未経験の職員に対する対応、経験者のスキルアップ

課題2 職員の業務量の最適化・効率化

<出来た事>

- ・相談支援・技術等7件、精神疾患等4件、ケアマネジメント等6件、権利擁護等4件、認知症等2件、コンプライアンス等1件、その他、計36件の研修に職員9名が参加した。
- ・プランの再委託を受けて頂ける居宅介護支援事業者の数をさらに10件以上増やし、三職種以外1人45件以上抱えていた自持プランを委託に回すことで、1人30件程度に整理することで業務量の負担軽減を行った。
- ・毎月1回主任ケアマネジャーによる各職員のケアプラン点検を実施し、ケアマネジメント帳票の統一化を図った。

9) あんしん見守り事業

課題 見守りネットワークの推進

<出来た事>

- ・地域や関係機関、総合相談からの情報に速やかに初期対応を行い、見守りを継続する対象者80名をフォローリストに掲載、地区担当で割り振り定期的なモニタリング、必要時介入を行っている。常時見守りフォローリストの改定を行い、毎月職員ミーティングで取り上げ、所内の情報共有を図った。
- ・地域の商店街を中心に、見守り協力店の登録をお願いし、13件の登録を行うことができた。